

ていることが分かった。

ヤマハは、子会社が運営し業績不振に陥った「つま恋」の売却交渉を複数の企業と進めてきた。全国でホテルや旅館を展開するHMIを譲渡先の有力候補と見ており、早期合意を目指す。「つま恋」の名称を継続することなどを求めている。

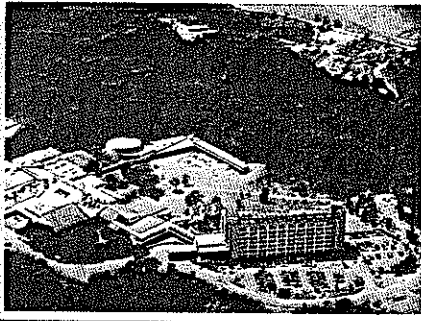
「つま恋」は昭和49年のオープン以降、歌手の吉田拓郎さんがコンサートを開催するなど「フォークソングの聖地」として親しまれた。だが、施設の老朽化や利用客の減少により赤字経営が続き、ヤマハは今年9月、営業を12月25日に終了すると発表した。

## ホテル運営会社と

### 「つま恋」譲渡交渉

経産省 ヤマハ

ヤマハが、一般向けの営業を終了するリゾート施設「ヤマハリゾートつま恋」（掛川市）の譲渡に向け、ホテル運営会社「ホテルマネージメントインターナショナル」（HMIホテルグループ、神戸市）と交渉し



「ヤマハリゾートつま恋」  
掛川市（ヤマハ提供）

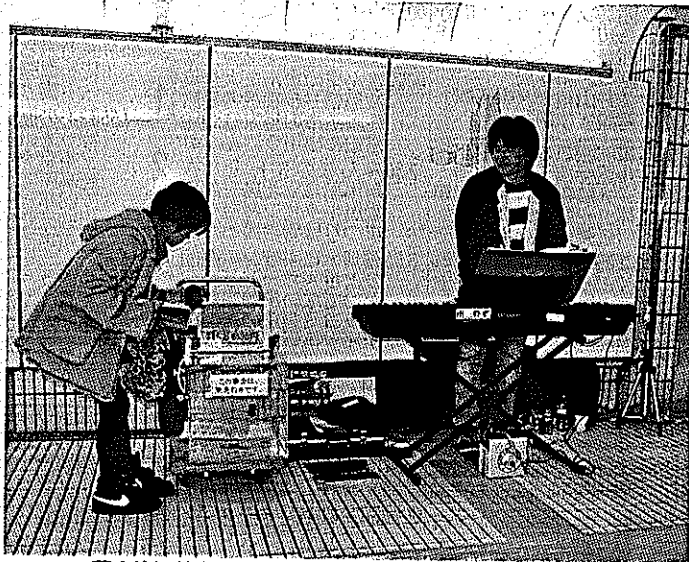
# 掛川で慈善ライブ6年目

## つま恋の余響 線路下に

中日 3.12.25

日本のポピュラー音楽史に不朽の足跡を残し、二十五日に幕を閉じるリゾート施設「ヤマハリゾートつま恋」（掛川市）の地元で、毎週土曜の夜、東日本大震災の被災地支援のためにピアノ弾き語りによる路上ライブを続けている「ミュージシャンがいる」。

袋井市の会社員、橋本薫さん（まこ）。つま恋などで一九八七〜九一年に開かれたプロへの登竜門といわれたコンテスト「バンドエクスポージョン」（ヤマハなど主催）で、世界大会に出場した経験のある橋本さんは「つま恋は私の青春であり、目標でした」と思いを語った。（佐野太郎）



募金箱に善意を投げ入れてくれた人に、立ち上がって会釈をしながら演奏する橋本薫さん＝24日夜、掛川市で

つま恋が営業を終える前

夜の二十四日午後八時ごろ、JR掛川駅の線路下を南北に結ぶ通路。いつものようにトレッドマークの青色横しま柄シャツにジャンパーをおった橋本さんが、電子ピアノなどを台車に載せて現れた。

演奏の準備を終えてピアノに向かうと、「今日は特別なことはしません」と話し、歌い始めた。中島みゆきの「糸」などJ-POPやオリジナル曲などのほか、観客のリクエストに応じて歌い、明るく通る声が通路

に心地よく響いていた。

橋本さんは掛川工業高でブラスバンド部に所属しながら、ロックバンドを組んでプロを目指し、十九歳ごろからバンド「くつ下」でボーカルとサックスを担当した。

くつ下はその後、音楽的志向の違いなどから解散。十年ほどのブランクをへて三十代半ばからピアノ弾き語りを始め、掛川駅の許可を得て通路での演奏を始めたのは二〇一〇年だった。

翌一一年三月に東日本大震災が起きた。橋本さんは以降、募金活動をしなが路上ライブを行うようになり、この五年九カ月間で被災地に届けた浄財は二百二十万円近くに上る。

「つま恋の営業終了は本当に残念。つま恋での経験を糧に微力ながら、被災地に少しでも役立てたいという気持ちで歌い続けたい」と語る橋本さん。募金箱に善意を入れてくれた人には、演奏中でも立ち上がって会釈して、五十曲ほどを歌い終わると夜が更けていた。

### 袋井の男性「青春だった」

それだけに、つま恋への思いは人一倍強く、「つま恋のステージに出場するためにどれだけ頑張ったか」と振り返る。

# つま恋 あなたの心に

中日 2012.12.26

## ヤマハリゾート一般営業終了

「フォークソングの聖地」として親しまれた掛川市清水の「ヤマハリゾートつま恋」が一般営業を終了した二十五日、現地には別れを惜しむ多くの常連客が訪れ、園内をゆっくりジョキングしたり、アーチェリーを楽しんだりして、最後の思い出づくりを励んだ。（土屋祐二、久下悠二郎）●面参照

二十四日の宿泊施設（二百二十室）はほぼ満室。ホテルフロントがあるスポーツマンズクラブ（S.M.C）のロビーでは、宿泊客が記念撮影をしたり、従業員との思い出話を花を咲かせたりする姿が見られた。「夏はプール、冬は肌場



## プール、風揚げ…惜しむ来場者

「子供の頃から家族で大層な場所だった。もう好きなら場所だ。もうす」と話した。懐かしむのは、東京都北区の会社員上土井優香さん（60）。静岡市清水区出身の彼女が、毎年のように訪れたといい、「九月の終業発表を聞き、帰って宿泊の予約を取った」と明かす。連休を利用して夫と二人の息子、親族や友人らと共に過ごし、クリスマス気分を満喫。小学校三年生の長男景性君（8）は「ゴーカートやサッカーをして楽しかった。また来たいなあ」と名残惜しそう。上土井さんの母、松井朱美さん（86）は清水区に「広々とした大自然の中で遊べる貴重な場所。同じような形で再開すき入れていた。」と願った。



一般営業の最終日を迎え、家族連れの利用客一人一人に笑顔で見送る女性スタッフ

## フォークの聖地 唇をかみしめて

一九七五年に伝説の「吉田拓郎&かべや姫」オールナイトコンサートが開かれた多目的広場近くでは、二十五日、フォーク仲間の男性四人が拓郎さんらの名曲の数々を奏で、当時の思い出に浸った。訪れたのは、「つま恋と拓郎が青春の原点」だという島田市の宮崎辰夫さん（86）、藤枝市の伝説のコンサートが開かれた多目的広場をバックに吉田拓郎さんの歌を演奏するフォーク仲間たち

## 「青春の原点」 思い込め演奏

堀田茂さん（86）、菊川市の杉山彰さん（86）、焼津市の鈴木健夫さん（86）。いずれもアマチュアとして、現在も音楽活動を続けている。「最後まで「つま恋」をしっかりと焼き付けておきたい」とアコースティックギターを弾きながら、多目的広場周辺で、コンサートのオープニングを飾った拓郎さんの「ああ青春」や定番の「落陽」、かべや姫の「人生は流行ステップ」などを万感の思いを込めて演奏した。ボブコンの前身のヤマハ・ライトミュージックコンテスト（LMC）東海大会フォーク部門で優勝した経歴を持つ宮崎さんは「営業終了の発表にはがくせんとしたが、継続の希望が出てきて良かった」と安堵の表情を見せる。「つま恋は音楽の聖地で不滅の場所。名前の継承とともに、今後も音楽活動が続けられるようにしてほしい」と期待を込めた。

